

研 究 紀 要

第 2 3 集

「こころ」と「からだ」の健康を主体的に考える子供の育成

2 0 2 2 年 3 月

弘前大学教育学部附属特別支援学校

研究紀要（第23集）の発刊にあたって

弘前大学教育学部附属特別支援学校

校長 川村 泰弘

2017年に公表された「国立教員養成大学・学部、大学院、附属学校の改革に関する有識者会議報告書」では、附属学校の課題と今後の方向性として、地域のモデル校としての役割をもつこと、地域のニーズに応えること、特色を明確化することなどを提言しています。

このことをもう少し具体的な視点から捉えますと、附属学校には、地域社会のためにどのような貢献ができるかという「公益性」、大学と協同で行う研究を通して地域の学校に何を提供できるかという「先進性」、そして、幼稚園、小学校、中学校、特別支援学校が協同で行う研究モデルの発信という附属学校ならではの「独自性」が求められていると考えます。

弘前大学では、本県の重点課題である寿命延伸に向け、健康づくりに関するプロジェクトを推進しており、これを受けて教育学部では2018年に「附属学校園健康教育推進事業」を立ち上げ、大学と附属学校校園が健康教育をテーマとした協同研究に取り組んできました。

こうした取組の中で、本校では『『こころ』と『からだ』の健康を主体的に考える子供の育成』を研究テーマに掲げ、地域課題の改善に向けた「公益性」と、大学との協同研究による、附属学校園ならではの「先進性」や「独自性」のある研究成果を発信していくことを目指して、研究をスタートしました。

2018年度から2019年度までの前期の研究では「日常生活活動量」「生活習慣」「心の健康」の側面から、児童生徒が自らの健康課題に進んで取り組むための支援方法を探り、5つの視点を明らかにしました。

また、2020年度から2021年度までの後期の研究では、この5つの支援方法に基づいた事例研究を通して、児童生徒の振り返りや自己コントロールを促す具体的なアプローチの仕方を探りました。

なお、研究を進めるにあたっては、弘前大学の先生方から専門的なご指導、ご助言をいただき、全教員で支援内容や手立てを共有して実践に臨むとともに、量的・質的な分析を通して研究成果や課題を整理しました。

本校の教育目標は「自分の持っている力を精いっぱい発揮し、積極的な社会参加をめざす」です。子どもたちが将来、積極的に社会参加していくためには、心身の健康を自分で維持し、管理できる力が必要です。

折しも、今般の新型コロナウイルス感染症対策を進める中で、感染予防に対する社会全体の意識喚起が図られ、学校における健康教育の必要性が改めて認識されているところです。

ささやかな研究成果ではありますが、具体的な取組をまとめた実践シートも掲載していますので、特別支援学校や小学校・中学校の特別支援学級等の実践においてご活用いただければ幸いに存じます。

皆様におかれましては、今後とも本校の教育研究に対しまして一層のご指導、ご支援をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

目 次

研究紀要（第 23 集）発刊にあたって

| | |
|------------|---|
| 第 1 章 研究概要 | 1 |
|------------|---|

| | |
|------------|---|
| 第 2 章 前期研究 | 3 |
|------------|---|

- 第 1 節 研究目的・方法
- 第 2 節 日常生活活動量グループの取組
- 第 3 節 生活習慣グループの取組
- 第 4 節 心の健康グループの取組
- 第 5 節 前期研究まとめ

| | |
|------------|----|
| 第 3 章 後期研究 | 31 |
|------------|----|

- 第 1 節 研究目的・方法
- 第 2 節 小学部の取組
- 第 3 節 中学部の取組
- 第 4 節 高等部の取組
- 第 5 節 後期研究まとめ

| | |
|------------|----|
| 第 4 章 研究総括 | 65 |
|------------|----|

資料 各実践まとめ

- 1 前期研究 実践まとめシート
- 2 後期研究 実践まとめシート

研究同人

研 究 同 人

校 長 川村 泰弘
教 頭 奈良岡孝信
教務主任 木村 亮

〈 小学部 〉

小林 泰子
千葉麻奈美
○研究部 H30 所属
佐藤 珠美
○研究部 R1 所属
大塚 亮子
○研究部 R3 所属
木村未希子
○研究部 R2 所属
手塚公志朗
◎研究主任 H30~R3 所属
加賀谷 紀
工藤まゆみ
山上 猛

〈 中学部 〉

阿保 英人
○研究部 H30~R3 所属
小枝 洋平
渡邊加世子
對馬 大成
梶 聡子
○研究部 R1~R3 所属
矢口 智洋
三橋 寛子
前田亜里沙
越田 喜子
大徳 容子

〈 高等部 〉

中嶋 実樹
○研究部 R3 所属
工藤 清和
木村恵利子
附田翔太郎
○研究部 R3 所属
柏原 理紗
○研究部 R1~R2 所属
千葉 嵩将
○研究部 R2 所属
鎌田 麻里
成田 宏太
○研究部 H30 所属
花田光佐子
佐々木美鶴
○研究部 R3 所属
西村 愛梨

〈 学校所属 〉

学習支援室主任
鳥潟 昌也
養護教諭
派谷 ミカ
栄養教諭
西谷 倫子

〈 転出者 〉

令和 2 年度 木村路子 岡田一也 棚内伸子 丹代菜々
令和元年度 高橋 寿 松井麻佐江 白石公德 成田淑美 勘林秀平 東谷聖子
○研究部 H30 所属 ○研究部 R1 所属
平成 30 年度 宮崎秀一 木崎達広 奈良岡恵美子 相馬力 白藤剛 渡辺直仁 米持里美
中村紳太郎

〈 研究協力者 〉

弘前大学教育学部 准教授 増田 貴人 弘前大学教育学部 教 授 戸塚 学
弘前大学教育学部 准教授 天海 丈久 弘前大学教育学部 講 師 益川 満治
弘前大学教育学部 講 師 中山 忠政

研究紀要 第 2 3 集

令和 4 年 3 月発行

(発行所) 弘前大学教育学部附属特別支援学校

(印刷所) やまと印刷株式会社
